

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070800327		
法人名	医療法人柳泉会		
事業所名	グループホーム柳橋		
所在地	長野県小諸市大字諸407		
自己評価作成日	令和 3年 8月 10日	評価結果市町村受理日	令和 3年 10月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanitrue&IizyosyoCd=2070800327-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	コスモプランニング有限会社
所在地	長野市松岡1丁目35番5号
訪問調査日	令和 3年 9月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス感染拡大以前は、地域の皆さんとのさまざまな交流は、グループホームを理解してもらうための貴重な機会と位置付け、積極的に取り組んできた。特に地元諸区との交流は、文化祭に利用者の作品を展示してもらったり、市民祭りには諸区からの要請により職員が大人神輿の担ぎ手として参加したり、子ども神輿がグループホーム前を練り歩く際は利用者が手作りの団扇で声援を送ったりしました。また夏になると子ども神輿が来ることを楽しみにしていました。地元諸区で毎月、定期的に公民館で開かれる「ふれあい会食会」や「健康達人くらぶ」に利用者が交替で参加し、レクリエーションや軽体操などを区内のお年寄りと一緒に楽しみ気軽に声をかけてもらえるようになってきました。地元の小中学生との交流では、小学生在にグループホームに来ていただき、利用者といっしょに七夕飾りやクリスマス会などの交流を行ったり、地元小学校の運動会や音楽会、中学校の文化祭に招待していただき、参加してきました。しかし、コロナ禍のため地元区の事業は中止や延期となり、小中学校では行事の規模縮小や招待の中止などにより以前のような交流はできませんでした。コロナ終息後は以前のような交流を深めていくこととしています。利用者の安全確保のための年2回実施する消防訓練では入所者の一部の方に参加していただき避難訓練を実施しています。この避難訓練は、平成29年3月に策定した非常災害対策計画にある避難訓練を兼ねて実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

浅間山の南山麓の、近くにブドウ畑や有名なワイン工場がある中に開設より20年を迎えようとしている当ホームがある。法人の理念6項目を基にホームの理念5項目が立てられ、それを念頭に職員は利用者の生活を支援している。毎月接遇委員会で目標を立てて周知したり、接遇研修会や身体拘束・虐待に関する研修を職員が受講することにより、職員の人権意識の向上が図られている。毎年、地区の会食会や文化祭に利用者と共に参加したり、ボランティアの来訪や小中学生との交流を行うなど地域との関わりが強かったがコロナ禍によりほとんどの活動が休止となっている。そのような中でも小学校から音楽会の様子が映ったビデオレターが届いたり、また、利用者がアクティビティーで作成した壁紙を小学校に贈り、更に区長と連絡を取り合うなどして、関わりが途切れないように努めている。家族との関わりではコロナ禍で面会が制限される中、写真入りの新聞や個々の健康状態や生活状況を記載した手紙を送付したり、電話で近況を伝えるなどしている。医療面では常勤の看護師が配置されているため密な観察ができ、急変時や状態の変化があった場合には法人の医療機関との連携が取りやすく、利用者や家族の安心に繋がっている。また、コロナ禍で外出の頻度が減っているため、日頃よりホーム周りの散歩やレクリエーションとしてのリズム体操や棒体操を行うことにより、運動不足にならないよう努めている。コロナ禍で先が見通せない中、職員は感染予防に努め、自らの生活も律して利用者の支援に当っており本当に頭が下がる思いがした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通じて、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				